

『平成27年度ふるさとやまぐち生活体験活動推進事業』活動報告書

【ふるさとやまぐち生活体験活動推進事業】

おもいやりの心を育むふれあい体験活動

山口県防府市立小野小学校

学 校 の 概 要

① 学校規模

- 学級数：8学級(内特別支援学級2学級)
- 児童数：141人
- 教職員数：17人
- 活動の対象学年：5年生・27人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 防府市の北部に位置し、佐波川の本流及び支流に沿った農耕・林業地帯である。
- 周辺には自然が多く残り、祭など伝統行事なども受け継がれている。
- 地域の学校教育への関心が高く、学習支援ボランティア、見回り隊等、大変協力的である。

③ 連絡先

- 〒747-0106
山口県防府市大字奈美633番地の1
- 電 話：0835-36-0004
- F A X：0835-36-0310
- ホームページ
<http://www.c-able.ne.jp/~onoes/>
- 電子メール
ono-e@c-able.ne.jp

体 験 活 動 の 概 要

① 活動のねらい

- 民泊で農漁家の人々や友達と共同生活することを通して、他者を敬い思いやる心を育む。
- 農村、漁村での様々な自然体験を通して、自然や生命を大切にする心を育む。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 事前の学習活動
総合的な学習の時間4単位時間
- 民泊体験活動
総合的な学習の時間6単位時間
遠足・集団宿泊的行事6単位時間

民泊先

- ・萩市萩地域：2戸
- ・萩市川上地域：1戸
- ・萩市むつみ地域：2戸
- ・萩市福栄地域：4戸 計9戸
- 事後の学習活動活動
総合的な学習の時間2単位時間
道徳の時間1単位時間

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ① 民泊で農漁家の人々や友達と共同生活することを通して、他者を敬い思いやる心を育む。
- ② 農村、漁村での様々な自然体験を通して、自然や生命を大切にする心を育む。

(2) 全体の指導計画

① 活動の名称

おもいやりの心を育む体験活動

- ② 実施学年：第5学年 27人(男子12人、女子15人)

③ 内容、教育課程上の位置付け、期間（単位時間数、日数、泊数）

単元名	領域	活動内容	時間数	他の教科及び領域との関連
海辺の生活を体験しよう	総合的な学習の時間	○ 海辺での生活について調べ、自分たちの生活との違いについて考える。 ○ 民泊の準備をする。 ・活動の計画、しおりの作成 ・自己紹介シートの作成	4	社会科「さまざまな土地のくらし」
	総合的な学習の時間	○ 海辺での活動を体験する。 ・魚釣り、捌き、試食 ○ 花燃ゆドラマ館を見学する。	6	
	遠足・集団宿泊的行事	○ 民泊体験をする。 ・受け入れ家庭での共同生活 ・ボランティア体験	6	
	総合的な学習の時間	○ 活動を振り返る。 ・グループでの振り返り ・自分自身の振り返り ・お礼状の作成	2	
落ちてきたダンボール	道徳の時間	○ 「おもいやりの心」について考える。	1	

2 活動の実際

(1) 事前指導

① 海辺の生活について調べる

既習の内容（社会科）を踏まえ、海辺で暮らす人々がどのような生活を営んでいるかを調べ、自分たちが実際にどんな体験ができるかを想像させた。

② 事前アンケートの実施

自分自身の生活習慣や自然体験への興味関心についてのアンケートを実施した。

③ 活動のめあての設定

事前アンケートを踏まえ、各自のめあてとクラスのめあてを設定した。

クラスのめあて

- ・進んで体験したり活動したりしよう。
- ・人に頼らず自分のことは自分でしよう。
- ・自然のすばらしさにふれよう。
- ・お世話になる方々とのふれあいや会話を楽しもう。

(2) 民泊体験活動

10月29日(木)	10月30日(金)
8:45 学校出発	午前中 各受入家庭にて体験活動
11:00 萩市須佐着 海辺での体験活動 (魚釣り、捌き、試食)	
13:00 昼食 萩地域へ移動	13:30 離村式
15:00 花燃ゆドラマ館見学	14:00 萩発
16:30 入村式(萩市民体育館)	15:30 学校到着
17:00 各受け入れ家庭へ移動 宿泊	

(3) 事後指導

① 活動の振り返り

民泊のめあてが達成できたかを自己評価させるとともに、グループ及び学級全体で振り返らせた。農漁家での体験活動は、児童が想像していたよりも大変なものであったようだが、楽しんで活動することができたようである。また、初対面の人との関わりに不安を抱いていた児童も、友達と一緒に生活したことや受入家庭の配慮により、安心して過ごすことができたようである。

② お礼状の作成

民泊先の家庭でお世話になったことへのお礼や、帰ってから考えたことなどを手紙に書かせた。日頃は文章を書くことを苦手とする児童も、自分の思いをしっかりと書くことができた。

③ 事後アンケートの実施

事前アンケートと同じ質問について回答させ、結果を集計した。また、民泊体験の感想を記述させ、まとめた。(別紙参照)

(海辺での体験活動の様子)





(入村式の様子)



(民泊先での活動の様子)





(離村式の様子)



(帰りの車内の様子)



3 体験活動の実施体制

(1) 学校や受入地域等の支援体制

① 学校の体制

引率：教諭2名（5年担任、特別支援学級担任）

② 受入地域の体制

運営：萩市ふるさとツーリズム推進協議会（事務局：萩市農林振興課）

萩・川上・むつみ・福栄各地域担当者

各受入家庭

③ その他

送迎：防府市役所総務部総務課車両係

(2) 配慮事項等

① 保護者への説明

4月のPTA総会にて、校長から5年生の保護者に対して、「やまぐちっ子の心を育む道徳教育」プロジェクト及び、民泊体験の主旨について説明した。その後、学級担任から、懇談会、学年通信等により、詳細を説明した。

② 児童の健康管理について

児童個々の健康調査票を作成し、アレルギー等事前に受入家庭に伝えておかなければならない事項についてまとめ、連絡した。

③ 児童の安全管理について

事務局と連携し、事務局・引率・各地域担当者・各受入家庭の緊急連絡網を作成した。さらに事務局作成の危機管理マニュアルを準備するとともに、保険に加入し、万が一に備えた。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

(1) 評価について

① 事前アンケートと事後アンケートの実施

アンケートの結果を数値化し、児童一人ひとり及び、学級全体としての変容を見取った。

② めあての設定と振り返り

事前に体験活動のねらいを明確にし、事後に振り返りをおこなった。グループや学級で話し合うことを通して、自分や友達の変容について実感させた。

(2) 指導の改善に向けて

① 体験活動の効果

直接体験の大切さをあらためて感じた。日頃の学習においても、地域素材等を生かした体験学習を仕組むことで、学習効果が高まると考える。

② 道徳教育の充実

「できなかったことができた」「不安に思っていたことが自信に変わった」等の、自己の変容への気付きが、児童の心の成長に不可欠である。本校で進める道徳教育の充実のためにも、体験に基づく児童の変容の過程を分析し、授業づくりに生かしたい。

5 活動の成果と課題

(1) 成果

事前アンケートと事後アンケートの比較より、学級全体として顕著に数値が上がった項目は、「①早寝早起きである」「④初めて会った大人の人と話ができる」「⑦自分から進んでなんでもやる」「⑧相手の気持ちを考えて行動することができる」「⑩いなかで暮らしてみたいと思う」であった。小野小の児童は、行事等で他校と交流する際は、萎縮してしまいがちであったが、民泊で、初めて出会う人とともに生活することで、自立することの大切さを学び、自分にでもできるという自信を得たようである。また、普段山間部で暮らしていることで、

都会へのあこがれもあったろうが、あらためて自然の大切さについて実感したことで、ふるさとのよさにも気付くことができたであろう。

また、事前アンケートに比べ、数値が下がった児童が多かった項目に「②初めて出会う生き物を触ることができる」があったが、実際に生きた魚を捌くことには、初めに想像していた以上の抵抗感があったようである。しかし、そのことで生命の尊さを実感し、食べ物を大切にしたいという思いが一層膨らんだことはとても有意義であった。

(2) 課題

① 経費について

市のマイクロバスで送迎していただくなど、経費削減のための工夫点を今年度の経験を踏まえ、さらに検討する。

② 計画・立案について

学校、受入事務局、教育委員会の連携がこのプロジェクトの鍵である。当初、計画立案の段階では、学校が中心となり、市教委、受入事務局と連絡を取り合った。また経費等については受入事務局と市教委が直接連携して進めて頂いた。児童の受入家庭が決まり、より綿密な計画を作成する段階になると、受入事務局と学級担任が直接連絡を取り合う方がよい場面もあったため、事務的な手続きや情報交換をスムーズに行えるよう、状況に応じて、三者が同時に集まり協議を行うなどの機会をもつ必要がある。